

## 第 1 回びわこ文化公園都市将来ビジョン検討委員会の主な発言

＜平成 23 年 8 月 24 日（水）開催＞

### 名称について

- 県民は「びわこ文化公園都市」という呼び方はしていないと思う。「文化ゾーン」という名称があるが、もう少し生活に密着した文化が感じられる、馴染みのある呼び方が必要ではないか。

### 案内・景観について

- 各大学の留学生や、企業にも海外から来ている人が多いので、案内表示などについて国際化への対応を考えていく必要がある。
- 個々の施設では景観に工夫されているが、全体としてみた場合、どのように調和を図っていくのかという視点があってもよい。市民が、より緑を深く感じ、景観を感じることができる、そこから琵琶湖が見えるといったものを実現していくことが重要である。

### 森林（緑の回廊）について

- かなりの緑があるが、市民がもう少し森の奥に入っていけるようにしていく必要がある。
- この地域の森は、今は人が入っていけるような状況にはない。先進的な里山管理の取組を見習いながら、周囲のステークホルダーが自分たちの森として管理していけるような方法を考えることができれば、素敵な森になるのではないか。

### アクセス（バス交通・駐車場）について

- 美術館はアクセスが悪い。近辺の来館者は車が多いが、遠方や県外からの来館者はバスを使わざるを得ない。美術館に来るには、バス停から 10 分ほど歩かねばならない。交通関係者とも相談して、公園の中を通るバス路線を検討してほしい。また、バスの通行には危険性や排気ガスの問題があるので、電動カートを用いたシステムを作れないか。
- 美術館は遠方からの来館者が多く、駐車場不足について苦情を受けることが多い。また、西駐車場が活用されていない。東と北の駐車場は既にいっぱいなので、西の活性化を考えていく必要がある。
- 長寿社会福祉センターの利用者は 95%が車で来ているが、イベントが重なると駐車場が足りなくなる。公共交通の利用も案内しているが、木之本から来ている人もいるので、電車で来るように言うのは辛い。困っている。
- 附属病院の利用者は、車とバスが半々くらいであるが、駐車場は足りていない。バスは、玄関前に乗入れるようになり改善された。

### 利便施設について

- 病院では、1日に 1,000 人、2,000 人という人が行きかっているのに、コンビニも飲食店なく困っている。
- 病院の近くに薬局がない。

## 交流人口について

- 県立近代美術館に、小学校や中学校の児童生徒が来館して「ほんもののアート」に触れることを願っている。滋賀県下の子ども達が、小学校在学中に一度は必ず来館するシステムを作れないか。

## 住民参画について

- この地域は、公共施設が集積しており静かで良い環境ではあるが、この広大なエリアを将来的に維持管理していくためには、市民、住民の参画ということが、資金的な面も含め重要である。
- 所有と利用を分離して、ステークホルダーとして住民が関わっていく参加型の仕組みを視野に入れていく必要がある。公が管理をして、一般の人は、表面的な利用だけを行うというのではなく、志のある市民が管理にも関わっていくというのが、今の日本の方向性ではないか。
- 田上の方には農地が広がっているが、そうした多数のステークホルダーが活用していけるようなプラットフォームが必要である。

## 地域内の連携について

- 今ある施設を活かして、どのように交流を図っていくかが重要である。
- 医大としても、他の施設とコラボレーションしていくことが重要だと考えており、病院で図書館や美術館、埋蔵文化財センターを紹介するなどの連携は可能である。現在は各施設に直接来て、そのまま帰るような利用形態になっている。
- 有力な施設がたくさんあるが、横のつながりが無いという点は課題である。
- 横につなげようという設計になっていない。物理的な箱を作って、たまたま各施設が入ったという形になっている。この文化公園都市は、開発のコンセプトが見えない。東側の草津市の住民が、西側の森を意識しているかということ、していないと思う。
- 美術館の行事チラシを、図書館の前で配ろうとしたら、規則があってできなかった。図書館にはたくさんの方が来るが、美術館には、なかなか人が来ないので困っている。
- 個別の施設の管理規則が、いわゆるタテ割りになっており、制度的にも、空間的にも、バリアがたくさんあるということではないか。全体のコンセプトを見直して、今の時代に合わない形骸化した規制はなくし、有効に利用できるようなトータルなランドデザインを考えていく必要がある。
- 何が障害になって連携できないのか。もしできないとすれば、制度的な問題、あるいはアクセスの問題などを、皆で共有して、解決を図っていく必要がある。

## 産官学連携について

- 大変重要である。滋賀医大のイノベーション・センターは常に満杯で、地元企業の意欲も高くなっており、ニーズは非常に大きいと考えている。

## 土地利用計画について

- 全体の利用計画として、元々どういう思いがあってスタートしているのか分からない。
- 元の土地利用計画では、文化クラスターとしてのエリアが龍谷大学の横に広がっているが、実際は、ほとんどが保安林になっていて触れなくなっている。

## 今後の活用について

- 里山の環境が眠りに良いということが分かっているので、滋賀医科大学では「眠りの森」事業に取り組んでいるが、このように潜在的な可能性のある地域である。
- この地域には、精神医療関係、リハビリや福祉施設があり、2人に1人が癌で亡くなっている中、附属病院でも癌関係のケア施設を設置している。こうした森のたくさんある場所に、ケアが出来るような、憩いの場になる施設があるとよいのではないか。
- 散歩やランニングをしている人も多く、運動にはとても適した場所だと思う。もっと広報して、活用していく必要がある。
- びわこ文化公園都市のポテンシャルは、かなりのものになっている。何もなかったら、こういう議論にはなっていない。県が投資してきたことは評価できるが、アウトカムが、十分引き出せる状況になっているかということが重要である。